

令和8年8月20日

香川大学が開発したワインブドウ「香大農 R-1」に
血管疾患予防につながる機能性成分が含まれることが明らかに！

香川大学農学部附属農場 望岡亮介名誉教授、諸隈正裕教授らの研究グループと香川大学医学部自律機能生理学 平野勝也名誉教授（現福岡歯科大学）らの研究グループとの共同研究により、香川大学育成ワインブドウ「香大農 R-1」の 50%エタノール抽出物が、トロンビンなどのセリンプロテアーゼ活性を阻害し、血管疾患に関与するプロテアーゼ活性化受容体 1（PAR₁）を介したシグナル伝達を抑制することを明らかにしました。この効果の約半分はカテキンやレスベラトロール等のポリフェノールに起因しており、天然成分を活用した血管疾患予防の可能性が期待されます。本成果は令和8年7月2日付で「Fitoterapia」誌に掲載されました。

つきましては、是非取材くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

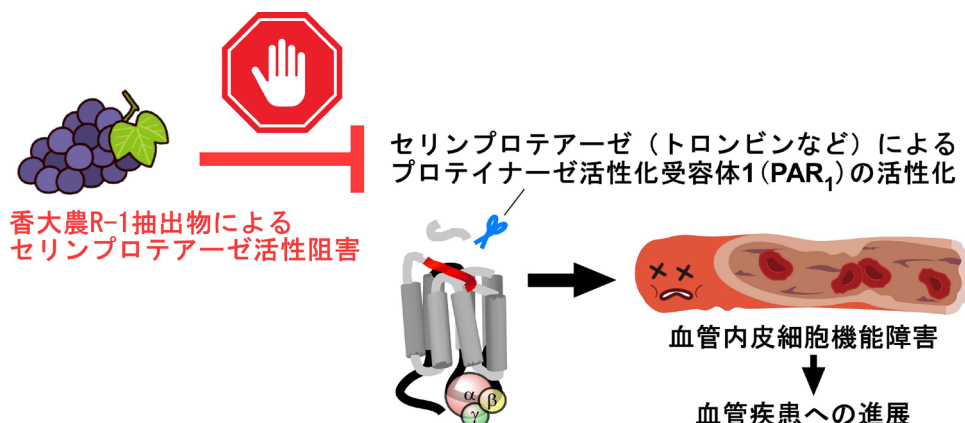
【研究のポイント】

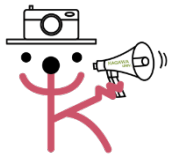
- ・ PAR₁ は血管内皮細胞におけるトロンビンの主要なシグナル受容体で、最終的には血管疾患の初期段階に至るため、トロンビン-PAR₁ シグナル経路を標的とすることは、血管疾患予防に重要であると考えられている。
- ・ 「香大農 R-1」の 50%エタノール抽出物にはトロンビンのプロテアーゼ活性を抑制する活性成分が含まれており、PAR₁ を介した Ca²⁺ シグナル伝達を阻害する。
- ・ この抑制効果の半分はポリフェノール化合物に起因している。
- ・ これらの発見は、トロンビン-PAR₁ シグナルを標的とする天然化合物のさらなる探索の必要性を示している。

【発表論文】

Natsuko Tsurudome, Tetsuo Yamashita, Ryosuke Mochioka, Masahiro Morokuma, Katsuya Hirano.
Contribution of polyphenols in wine grape extract to the inhibition of serine protease activity and proteinase-activated receptor 1-mediated Ca²⁺ signaling in vascular endothelial cells.

Fitoterapia 193: 107367, 2026 (doi: 10.1016/j.fitote.2026.107367)





取材申込はこちらから↓



➤ お問い合わせ先

＜本研究に関するお問い合わせ＞

香川大学農学部 名誉教授 望岡亮介

TEL: 0879-52-2763 E-mail: mochioka.ryosuke@kagawa-u.ac.jp

福岡歯科大学 口腔医学研究センター

医学系プラットフォーム 客員教授 平野勝也

TEL: 092-801-0425 E-mail: hirano.kt@fdcnet.ac.jp

＜広報に関するお問い合わせ＞

香川大学農学部庶務係

TEL: 087-891-3008 E-mail: shomu-a@kagawa-u.ac.jp

香川大学医学部総務課 広報法規・国際係

TEL: 087-891-2008 E-mail: kouhou-m@kagawa-u.ac.jp